

風景構成法における描画空間構成プロセスに関する研究

大場, 麗

<https://hdl.handle.net/2324/4059968>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (心理学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名	大場 麗		
論文名	風景構成法における描画空間構成プロセスに関する研究		
論文調査委員	主査	九州大学	准教授 佐々木玲仁
	副査	九州大学	教授 吉良安之
	副査	九州大学	准教授 松下智子
	副査	九州大学	教授 南博文

論文審査の結果の要旨

本論文は、心理臨床で用いられる描画法の一つである風景構成法について、その重要な性質の一つである空間構成に着目し、描画空間構成プロセスを多角的に検討することで、風景構成法の技法のこれまで明らかになっていなかった性質についての仮説を探索的に生成したものである。この探索的な仮説生成を行うために、いくつかの分析手法を開発し、それらに基づいて風景構成法の各段階における構成プロセスの詳細について分析を加えている。

第1章では、本論文全体の問題及び目的として、風景構成法における空間構成に着目することの重要性を指摘した。また、空間構成に関する先行研究を網羅的に概観し、その重要性に比して十分に知見の蓄積をみていないこと、特に空間構成を検討するために重要とされている構成プロセスについてはほぼ未開拓の分野であることを示した。その上で、風景構成法の描画空間の構成プロセスの描き手の体験様式について探索的に検討し、仮説を生成することを本論文の目的として設定した。第2章では、本論文全体に対して適用した質的研究法および仮説生成型研究としての位置づけを示し、依拠可能性、信用性、転用可能性という質的研究の評価基準を満たす方法をとることを論じた。第3章では、風景構成法の個々のアイテムの描画時間に着目し、先行研究よりも精度の高い分析方法を用いることで、特に第三アイテムである「田」から「道」に描き進んでいくときの描き手の体験の過程、付加物、「川」アイテムの性質について新たな知見を得た。第4章では描画過程における「図と地」の分化プロセスに着目し、各アイテムの紙面上の占有率とその推移を分析することで、複数のアイテム間の相補性が示された。続く第5章では、アイテムが紙面上に配置されていくプロセスについて論じ、クラスター分析を用いて紙面上のアイテムの配置を分類し、それぞれの型の描き手の描画プロセスの均衡性、力動性について論じた。第6章では、先行研究の蓄積が顕著に少ない彩色過程に着目し、彩色プロセスを詳細に分析することで彩色が風景構成法の構成に与える影響が探索的に検討された。この検討により、各アイテムおよび余白部の彩色傾向が明らかとなり、彩色によって第4章で論じられた図と地の構成に変容が生じることが見出された。第7章では、彩色過程の中で生じる重色現象に着目し、その色系統の組合せによって分類され、同系色内の重色は三次元性を表現し、他系色間の重色は描画に時間性を付与するという仮説が生成された。以上のように、本論文では、先行研究の蓄積が充分でなかった風景構成法の描画空間構成プロセスについて多角的な観点から分析を行い、風景構成法の理解に資する複数の有効な仮説を生成することができた。

本研究では、描画法の描画プロセスの分析方法を複数開発したこと、風景構成法の線描段階、彩色段階それぞれにあらわれる構成プロセスの意味についての新たな仮説を得たこと、そして臨床場面に転用可能ないくつかの知見を得たことから、臨床心理的な意義は極めて大きいと言える。

よって、本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。